

第3回篠山市総合教育会議 議事録

1. 日 時

平成27年10月9日（金） 午後15時00分～16時45分

2. 場 所

市役所本庁舎4階 401・402会議室

3. 会議に出席した構成員

市 長 酒井 隆明

教育委員会

教 育 長 前川 修哉

教育委員 酒井 克典

教育委員 小澤 千秋

教育委員 中村 貴子

教育委員 垣内 敬造

4. 構成員以外の出席者

総務部長 植村 富明

教育部長 上田 英樹

5. 事務局出席者（教育委員会事務局）

次 長 細見 博文

教育総務課

課 長 小林 康弘

係 長 安井 聡博

6. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

酒井市長	1 開会（酒井市長挨拶）
	2 協議・調整事項について
	(1) 篠山市教育大綱の策定について
酒井市長 中村委員	項目ごとに確認をしていきたい。「1. ふるさと教育」についてはどうか。 「(3) 自然とふれあう教育」について、「チョウ」は漢字にするほうがよいのではないか。
酒井委員	市内の学校では、どのような自然とふれあう教育を進めているのか。参考までに教えて欲しい。
細見次長	オオムラサキは篠山小学校、オオサンショウウオは西紀北小学校、お苗菊は城北畑小学校・村雲小学校・大芋小学校、サギソウは今田小学校が取り組んでいる。
酒井委員 細見次長	「学校にヒーローを」ということを大綱に示すとして、学校の対応は可能なのか。生活科や総合的な学習の時間において、自然や歴史、文化については身近なところから学習を始めており、社会や理科でも取り扱えると考えている。
前川教育長	チョウについては、単に「オオムラサキ」と表記してはどうか。また、サギソウも含めて、「～など」と文章をまとめるのが良い。
酒井市長 酒井委員	熱心な教員がいるところは、こういった取り組みが積極的である。 「学校にヒーローを」ということを全面に出した場合、人材の問題も含めて、次につなげる取り組みを意図的にしなければならない。
酒井委員 前川教育長	学校現場では、動物か植物かで1つとなるのか。 どちらも進めているところもあり、また学年にもよる。例えば、大山小学校では、郷土野菜である「アモチイモ」の栽培に取り組んでいる。地域の外部講師と一緒にできれば効果も上がる。
酒井市長	「(2) 篠山の食をいかした学校給食」で、「地元食材活用率日本一」としているが、本当に達成できるのか。
安井係長	学校給食センターに確認したところでは、県下では3本の指に入るほどの高水準を維持している。ただ、全国規模での実態は把握できていない。
酒井市長 安井係長 酒井委員	どのように高水準なのか。 重量ベースの割合である。例えば、大根は重くなるしネギなどは軽くなる。 今の事実は、市民もほとんど知らない。アピールしていくことも大切である。現状の実績であれば、全国上位もめざせるのではないか。そのためには、JA等との調整だけでなく、ある程度の予算化も必要である。
酒井市長	「(1) 篠山ほど良いところはない」で、「丹波篠山学」という名称を付けたがどうか。
酒井委員 細見次長	学校でも同じような取り組みをしていると思うが、現状を教えて欲しい。 小学校3年生では副教材「私たちの篠山市」、小学校6年生では「篠山ふるさとガイドブック」を活用して、地域のことを学んでいる。また、地元の方を招いて、黒豆の栽培などにも取り組んでいる。中学校では、トライやる・ウィークの体験の中で、事業所の方には「篠山らしいところを子どもたちに教えて欲しい」とい

中村委員 前川教育長	<p>ったことも伝えている。</p> <p>「うりぼう検定」も活用できないか。</p> <p>現在、検定自体は行っていないが、問題集をデータにまとめて各学校に配布している。</p>
酒井委員	<p>新たなものを取り入れると学校の負担が増える。内容を整理・体系化すれば、今の学習活動の延長で取り組めると思う。</p>
垣内委員	<p>「丹波篠山学」は大賛成である。</p>
酒井市長 小澤委員	<p>「2. 地域に開かれた学校」についてはどうか。</p> <p>「(2) 高齢者と共に学ぶ」のところで、「子どもたちの学習意欲を高める」とあるが、「多様な価値観に触れる」ということも大きな視点だと思うので付け加えてはどうか。</p>
酒井委員 酒井市長 細見次長	<p>「互恵」という意味合いが含まれればよいのではないか。</p> <p>共に学ぶ効果としては、どのようなことが考えられるのか。</p> <p>例えば、小学校で「しめ縄づくり」に取り組んでいるように、親世代も知らない日本古来の良さ・篠山の良さを、高齢者から直接教えてもらうことは、子どもにとっては大きいと思う。中学校では、他者に対するいたわりの気持ちを学ぶ要素にもなる。</p>
垣内委員 小澤委員	<p>高齢者も、子どもから活力を貰えると思う。</p> <p>「学ぶ」という視点だけではなく、高齢者と子どもの関わる時間が減少傾向にあることへの対応方策になると思う。</p>
酒井市長	<p>さぎそう学園であれば、今田校区でまとまっているが、たんなん学園は、中学校区でひとつであり、小学校で高齢者大学を行うとなれば難しい。学園と校区は一致していない。</p>
酒井委員	<p>学園単位で全てを網羅する必要はなく、実施状況にあわせて講座ごとの設定も可能だと思う。</p>
前川教育長	<p>プログラムの組み方で対応できると思う。コミュニティ・スクールの議題に取り上げても良い。</p>
酒井市長 中村委員	<p>「(2) 高齢者と共に学ぶ」のところで、「オープン講座」としたが問題はないか。</p> <p>篠山小学校では、童謡唱歌の会の方と一緒に歌を歌う場があり、そういうイメージで良いと思う。</p>
酒井市長 中村委員	<p>一緒に学習発表を行っているのか。</p> <p>そうである。</p>
酒井市長 安井係長	<p>ちなみに、大綱の適用期間は法的に決まっているのか。</p> <p>法的に決まっているものはない。総合教育会議の論議の中では、市長の任期に合わせるのが良いのではないかと、との意見があった。</p>
酒井委員 酒井市長	<p>そうならば、総合計画と合わせておく必要があるのではないかと。</p> <p>現段階で、この大綱の内容を総合計画に盛り込むのは難しい。「(1) コミュニティ・スクール」のところで、「授業の内容に地域の事を取り入れることができたり、学校で起こった問題に際して、教員だけに負担を負わせるのではなく、地域</p>

前川教育長	あげて早期に問題を解決します。」としているが、問題はないか。
中村委員	「～たり」について、文章表記上は、2つ以上の事柄を例示するのに使うので、ここでは、「～取り入れることができ、学校で～」とするのが適切である。
細見次長	教員目線でも、問題のない表現になっているのか。
酒井委員	教員の労働時間が増える中、文部科学省も「地域の力を借りる」ことへ方向性を示しており、問題はないと思う。ただ、「教員だけに負担を負わせるのではなく」という箇所が、表現として気になる。例えば「教員だけでなく」としてはどうか。コミュニティ・スクールの趣旨に沿っていると思う。
酒井市長	「3. 学力向上」についてはどうか。
酒井委員	「公教育（義務教育）で学力保障をする」といったことを強調したい。
酒井市長	良い表現が出てこないのので、後ほど整理する。「(2)市内3高等学校との連携」のところで、「高等教育」は大学教育と思われることもあるので、「高等学校教育」とする。
酒井市長	「4. スポーツに親しむ」についてはどうか。いわゆるスポーツに限らず、基礎体力も考えていきたい。「将来」とあるが、「生涯」とするのが適切だと思う。
酒井委員	体を動かす子、動かさない子の二極化が進んでおり、ここでのスポーツの捉え方を明確にしておきたい。
酒井市長	単に「体力を付ける」という表現ではイメージと合わない。
酒井市長	「5. あいさつと生活習慣」についてはどうか。
中村委員	「(2)早寝・早起き・朝ごはん」のところで、現在、生活習慣の取り組みとして「ふた葉プロジェクト」を展開しているので、その内容と合わせるのが分かり易いと思う。
前川教育長	「ふた葉プロジェクト」では「遊び」も含めているので、スポーツの取り組みとも連動できる。
垣内委員	「篠山では、ふた葉プロジェクトとして、家庭と一体となった～」としてはどうか。
酒井委員	大綱にした場合、「ふた葉プロジェクト」だけでは、分かりにくい。取り組みテーマの「ぐっすり眠って、たのしく食べて、たっぷり遊ぼう」を入れてはどうか。
中村委員	よく分かると思う。
酒井市長	この内容は、総合計画に示しているのか。
上田部長	確認する。
垣内委員	総合計画では、「シンボルプロジェクト」を掲げており、新しい総合計画では「日本遺産」の内容を盛り込むこととしている。そこでは、今まで積み上げてきた伝統をもとに、新たな文化を創造し育てていくことを謳っており、大綱（ふるさと教育）にも反映できないだろうか。また、学校教育だけでなく社会教育を含めた生涯学習の視点も重要だと思うので、例えば、「教育資源をいかした新たな教育への取り組み」といったような内容を、どこかに盛り込めないだろうか。

酒井委員	<p>篠山市では、教育委員会が社会教育分野も担っているので、社会教育は大きな柱である。「よき篠山人を育てる」といったような、アプローチは大切だと思う。学力についても、個人のものというよりは市全体のものという捉え方をしたい。環境（雰囲気）が子どもを育てるということを大切に考えたい。</p>
前川教育長	<p>「3. 学力向上」について、題目を「学力の確立と向上」にすれば、より具体的にならないか。また、垣内委員の提案には同感だが、大きいテーマであるので、どこに収めるかが難しい。</p>
酒井委員	<p>「篠山の時代」にふさわしい大綱にするには、その項目があったほうが良いと改めて思う。</p>
酒井市長 上田部長 中村委員	<p>感覚的には理解できるが、具体的な施策展開のイメージができない。総合計画について、表現が異なる文言はあるが、大綱の内容はほぼ含んでいる。「1. ふるさと教育」の「(3)自然とふれあう教育」のところで、「ヒーロー・ヒロイン」とあるが、「ヒーロー」だけでよいと思う。</p>
酒井市長	<p>だいたい、まとまったと思う。細かな字句については調整する。</p>
<p>3 その他</p>	
<p>(1) 第4回総合教育会議の日程について</p>	
<p>平成27年10月30日（金）15時～</p>	
<p style="text-align: right;">以 上</p>	